

引っ込み思案幼児への社会的スキル訓練—仲間協力児の分析— (2)

○岡村 寿代 吉野 美和
(宮崎大学教育学研究科)

佐藤 正二
(宮崎大学教育文化学部)

【問題】

幼児の個別社会的スキル訓練(以下 SST)は、訓練に仲間を参加させる手続きが一般的となっている。これまでの SST は訓練対象児に焦点をあてて分析しており、訓練に参加した仲間(以下、仲間協力児)が社会的スキルを促進させるのかどうかについてはほとんど分析されることはなかった。そこで本研究では、仲間協力児の分析を行うことを目的とする。

【方法】

対象児:宮崎県内の幼稚園に在籍する年長女児 3 名(6 歳)が引っ込み思案児への社会的スキル訓練における仲間協力児として参加した。

ベースライン査定:①行動観察 1 セッション 10 分間として 3 セッション実施した。②教師評定 渡辺ら(1999)によって標準化された幼児版教師評定用社会的スキル評定尺度(以下、SSRS)を使用した。

標的スキルの選択:遊び空間を共有することとコミュニケーションスキルを選択した。

社会的スキル訓練:訓練期間は 11 月中旬から 12 月中旬にかけて 14 セッション実施した。訓練室での 10 分程度の訓練の後、自然遊び場面でのコーチングを実施した。訓練手続きは教示、モデリング、行動リハーサル、フィードバックから構成された。

フォローアップ査定:フォローアップ査定は訓練終了から 1 ヶ月後の 1 月上旬に行動観察を 3 日間実施し、担任教師に SSRS への回答を依頼した。査定手続きはベースライン期と同様であった。

【結果・考察】

働きかけと応答:Table1 は 10 分間にカウントされた行動数を 1 分間の生起頻度として算出したものである。働きかけは 3 名とも訓練後に減少しているが、A と B

Table 1. 仲間協力児の働きかけと応答

	Base	T1	T2	T3	Post	Follow
A 働きかけ	1.08	0.88	0.76	0.68	0.55	1.2
応答	0.28	0.43	0.43	0.17	0.33	0.53
B 働きかけ	1.62	1.7	1.25	1.6	1.57	1.93
応答	0.40	0.46	0.40	0.23	0.28	0.47
C 働きかけ	0.93	1.1	1.77	0.98	0.5	0.83
応答	0.37	0.14	0.53	0.42	0.17	0.47

は 1 ヶ月後に増加を示している。応答は A のみ訓練後に増加を示し、3 名とも 1 ヶ月後に増加を示している。

教師評定:Table2 は SSRS の得点の変化を示している。社会的スキル領域は 3 名とも訓練後に増加を示し、A は 1 ヶ月後も増加を示している。問題行動領域は A と B が訓練後と 1 ヶ月後に減少を示している。以上の結果より、幼児の個別 SST は、訓練に参加した仲間協力児の社会的スキルを促進させることが明らかとなった。

Table 2. SSRS *6 歳児の平均と () 内は SD を示す

		Base	Post	Follow	平均
社会的スキル	A	109	118	122	*86.2
	B	98	118	117	(13.0)
	C	118	123	119	
社会的働きかけ	A	36	40	39	*28.5
	B	32	38	38	(5.44)
	C	39	39	36	
自己コントロール	A	16	22	24	*15.6
	B	15	22	22	(3.11)
	C	23	25	24	
協調性	A	25	23	25	*20.7
	B	21	25	25	(2.73)
	C	25	25	25	
教室活動	A	33	33	34	*21.4
	B	30	33	32	(4.65)
	C	31	34	34	
問題行動	A	17	16	15	*20.9
	B	27	23	19	(5.00)
	C	15	15	15	
不安・引っ込み思案	A	7	6	6	*7.20
	B	10	10	6	(1.87)
	C	6	6	6	
攻撃・妨害	A	6	6	5	*7.20
	B	12	8	9	(2.52)
	C	5	5	5	
不注意・多動	A	4	4	4	*6.40
	B	5	5	4	(2.28)
	C	4	4	4	